

白鳥誠 市政レポート Vol.81



発行：千葉市議会議員 白鳥誠事務所

〒266-0033 千葉市緑区おゆみ野南2-97-9 TEL.043-293-7130 FAX.043-307-4882
E-mail : info@m-shiratori.jp URL : www.m-shiratori.jp

令和4年 第1回定例会議会報告 (2月18日～3月17日)

令和4年度当初予算は、神谷市長により編成された初めての予算です。神谷市長は、昨年市長就任時、「新型コロナウイルス感染症対策と危機管理・防災体制の強化」を最重点課題としていました。新年度予算では、財政健全化に配慮し行政改革を進めながら、これらの課題や児童虐待等の社会情勢への対応を踏まえた予算となりました。今号では、今定例会で審議された議案や令和4年度当初予算、ウクライナ支援等について、また、私が行った一般質問の内容(新庁舎、地域経済活性化)について、報告します。

令和4年度当初予算規模(一般会計) 4,884億円
(対前年度比 220億円増 4.7%増)

令和4年度の主な事業、新規・拡充事業(一部) ()内:予算額

安全・安心

◆新型コロナウイルス感染症対策

- 感染者等への対応—宿泊療養施設の確保(11.85億円)、自宅療養支援(10.54億円)、PCR検査体制の確保(3.04億円)等
- 経済対策—中小企業者事業継続支援金(2億円)、テレワークプラン販売促進(1億円)等
- 市民生活支援・地域コミュニティ回復—心のケア相談(0.44億円)、女性のためのつながりサポート(0.15億円)、コミュニティソーシャルワーカーの配置強化(0.99億円)等

◆地域防災力の向上、交通安全

- 屋根耐風診断・耐震診断・改修助成(0.54億円)、防災ラジオの更新(0.25億円)、デジタルサイネージ(映像による電子看板・掲示板)による災害情報の配信(0.04億円)、通学路安全対策(0.5億円)、防犯カメラ設置費助成(0.12億円)等

健康・福祉

◆地域包括ケアシステムの構築・強化

- 特別養護老人ホーム整備費助成(10.11億円)、あんしんケアセンターの充実(10.42億円)等

◆障害者支援

- 発達障害者支援体制の強化(0.3億円)、重度障害者グループホーム等の整備(1.67億円)、障害者機関相談支援センター運営(2.23億円)

◆医療・健康支援

- HPVワクチン(子宮頸がんワクチン)接種(9.67億円)、産後ケア(0.65億円)、新病院整備(海浜病院の老朽化による建替え)(47.75億円)

◆セーフティネット

- 生活困窮者自立相談支援(1.95億円)等

子ども・教育

◆学びを支える教育環境の充実

- 若葉住宅地区小学校新設(1.13億円)、公立夜間中学設置(0.68億円)、小学校における専科指導のための講師の配置(2.7億円)、学校施設環境整備(67.47億円)【一部2月補正対応】、給食室空調整備(0.92億円・債務負担行為2.07億円)等

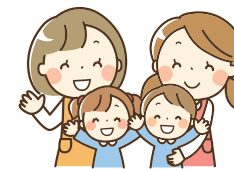
◆学校生活支援の充実

- 不登校対策(0.98億円)、スクールカウンセラー活用(0.9億円)等



◆保育・放課後児童対策の充実

- 子どもルーム整備(2.83億円)、子どもルーム土曜日開所時間延長(0.47億円)、アフタースクール運営(7.8億円・債務負担行為 23.26億円)、放課後児童健全育成事業補助(1.32億円)、民間保育園等整備(6.89億円)等



◆児童虐待防止

- 児童相談所2所化・新児童相談所基本計画策定(0.1億円)、里親養育包括支援(0.27億円)、生命の安全教育推進(0.03億円)等

◆困難な状況にある子ども・家庭への支援

- 子どもの貧困対策総合コーディネート(0.32億円)、学校外教育バウチャー(0.34億円)

交通

◆持続可能な公共交通ネットワークの形成

- 新たな地域公共交通導入に向けた社会実験—高津戸町(0.13億円)、グリーンスローモビリティ(時速20km未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービスでその車両も含めた総称)導入(0.12億円)

◆広域道路ネットワークの形成

- 街路整備【一部2月補正対応】(44.32億円)塩田町誉田町線、誉田駅前線 ほか 等

地域経済・農業振興

◆地域経済の新たな担い手の創出

- 企業立地促進(8.41億円)等

◆観光資源の価値向上

- イベントツーリズム促進(5.6億円)、市内観光バス活用促進(4.59億円)等

◆MICE*の推進

- X Games(日本初開催となる世界最大のスケートボード等のアクションスポーツの祭典)等開催に伴う負担金(1.49億円)

*Meeting(会議)、Incentive Travel(研修旅行)、Convention(国際会議)、見本市・展示会(Event/Exhibition)の頭文字。多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントの総称。

◆農業の担い手確保・育成

- 農政センターリニューアル(2億円)、農業継承者経営発展支援(0.02億円)、新規就農の推進(0.52億円)、耕作放棄地整備(0.02億円)等

その他、環境・自然、都心、地域社会、文化・スポーツ等各分野での取組み

財政健全化の状況

〈基金借入残高の推移〉

H25 312億円→R1 247億円→R2 237億円→R3 197億円→R4 177億円

過去に収支不足を補てんするために実施している基金からの借入は、令和3年度及び 令和4年度で総額60億円を返済し、着実に削減されています。

〈財政調整基金の推移〉

* 財政調整基金—自治体の積立金、災害など必要やむを得ない理由で財源不足が生じた年度に活用する。

H25 37億円→R1 89億円→R2 128億円→R3 190億円→R4 120億円

新庁舎整備等の財政需要増に対応するため、R4年度70億円の取り崩しを行うものの、一定の残高(120億円)を確保する見込み。

〈全会計市債残高の推移〉

H30 9,791億円→R1 9,732億円→R2 9,701億円→R3 9,846億円→R4 9,992億円

市庁舎・市立病院整備等の多額の財政需要を賄うため、R3・4年度は前年を上回る見込みとなっていますが、財政見通しの計画内に収まっており、財政健全化は着実に進んでいます。

財政調整基金の取り崩し、市債残高の増など、一部逆行する点ではありますが、健全化は着実に進められています。私は、今後も財政健全化路線を維持しながらも、新型コロナ・ウクライナ情勢等により厳しい環境に対応するため市民の生活支援・地域経済活性化に積極的に取り組むことを求めてまいります。また、予算の執行にあたっては、創意と工夫を凝らし経費の一層の縮減に務めることを求めてまいります。



地域経済活性化について

白鳥 地域経済活性化を図るための
質問 方策について

神谷 市外からの新たな需要を取り込むとともに、消費者が地元の事業者から商品等を購入し、地域の経済を支えていく「バイローカル」の視点をもって取り組みを進めていくことが大切であると考えている。そのためには、「バイローカル」の考え方を市民の皆様にご理解いただきながら、地産地消の推進や市内での消費喚起などを進めていくことが重要であり、このような取り組みにより、市内事業者の収益が増加するとともに、地域の生活者の所得向上が図られ、それがさらなる市内消費につながる好循環が生まれていくと考える。

「バイローカル」とは、地元で買い物・外食することで、地域経済の活性化を図り地元で所得を還元しようとすることです。この「バイローカル」の取組を行っているところでは、地元商店街での「日常利用が増加」した他、「暮らしの質や街の魅力が増した」と実感した、等の効果が報告されています。私は、「バイローカル」の考え方を市内全域に広めるための取組を求めました。また、新型コロナウイルスに加え燃油高騰等の影響の長期化・深刻化により地域経済、特に地域の生活者でもある農業者や中小の事業者が疲弊しています。

質問 燃油高騰により収益が悪化している農業者を含む中小企業に対する新たな支援策について

答弁 引き続き、国の動向を注視するとともに、先に設置した特別相談窓口に寄せられる市内中小企業の方々の声や、農業者からの現場の声をしっかりと捉え、必要となる対策について検討する。

コスト増を価格転嫁等により吸収できず、きびしい状況に追い込まれている方たちを支援することが求められています。また、このことを市から国に対しても強く求めることも訴えました。

新庁舎について

新庁舎概要

地上11階／延床面積約49,700㎡
工事費／約265億円 R5年.1月完成、6月全面供用開始



建設中の新庁舎 (R4.3月)

新庁舎は、来年(R5年・1月末)に引き渡しが行われ、その後5月まで庁内各所管の引越しがおこなわれます。この庁舎建設にあたっては、前熊谷市長時代約10年前から検討され、2011年3月の東日本大震災の教訓により、防災の観点

から防災センターの設置をはじめ、大地震がおきても倒壊せず、防災・復興の業務をこなせる庁舎の必要性、維持管理費用等を含めた50年間のトータルコスト、3カ所(現本庁舎・ポートサイドタワー・千葉市中央CC)に分かれている所管が1カ所に集まるメリット等の観点から総合的に判断して新庁舎建設が決定されました。今回は、計画当時の段階で、市民の皆さんに説明していた内容が実際にどうなっているか等の確認と市職員約2500人が通常通りに業務をこなしながら引越しを行いその前後に支障なく市民サービスを提供できるようにするため、確認の意味で質問しました。

質問 新庁舎移転後の千葉中央コミュニティセンター、ポートサイドタワーの活用について、また、庁舎建設費用や維持管理費用など、計画した当時のライフサイクルコストと実施状況との差異及び理由について

答弁 千葉中央コミュニティセンターについては、耐震性を確保した上で、引き続き公用・公共利用、することを前提に、令和4年度中に具体的な利用についての方針を決定したい。また、千葉ポートサイドタワーについては、現状に復する修繕を行った後、返却する。

計画した当時の費用概算と実施状況との差異及び理由については、当初の概算額では、庁舎建設や移転等の施設整備に係る費用を約224億円、施設整備期間中の維持管理等を約51億円、50年間の維持管理に係る費用を約297億円、これらをあわせたライフサイクルコストを約572億円と試算した。令和4年度当初予算案時点での工事費や什器・備品等の整備経費、移転などの全体事業費は約290億円、その差は約66億円の増となっており、これは、概算額算定時には見込んでいなかった土壌汚染対策費、什器整備費や消費税率の引上げ等のほか、物価変動の影響があったものと考えている。また、新庁舎の維持管理費については、建物・設備等の仕様を踏まえ、中長期的な修繕や機器の更新などに係る費用を含め、現在、JV事業者が算定作業を進めている。今後は、その結果を元に、必要な精査を行う。

質問 新庁舎による近隣のまちづくりへの寄与について

答弁 新庁舎が千葉駅周辺の「まち」と「みなと」をつなぐ結節点となることを目指す。具体的には、売店、食堂、イベントスペースなどの来庁者利用の多い機能を1・2階に集約することや、壁面緑化やウッドデッキなどの整備により周辺環境と調和した歩行空間を整備するとともに、将来活用検討地においても民間機能の誘致による賑わい創出など、まちづくりに寄与できる手法について考える。

私は、地域経済活性化を進めるまちづくりの観点から、責任所管である新庁舎整備課と経済部や都市局の関連部門等と連携して魅力づくりを進めるよう求めました。

市職員の定数条例の改正

職員の定数(市長部局)
4,225人→4,415人(+190人)

感染症対策や児童虐待への対応など社会情勢の変化に合わせて専門職を含め増員

- 児童虐待対策の強化
 - 児童相談所の2所化等 +50人程度
 - 危機事案への対応強化
 - 新型コロナウイルス感染症対応、自然災害等への対応体制強化等 +70人程度
 - その他、自治体情報システムの標準化への対応、技能職の強化等 +50人程度
- 今後も、効率的な業務遂行、無駄のない組織体制となるようチェックして参ります。
(参考)人口1万人当たりの職員数
— 政令市平均40.1人、千葉市33.8人

ウクライナからの避難民の受け入れ支援について

市議会は、ウクライナへの軍事侵攻に強く抗議する決議を全会一致で行いました。市では、ウクライナからの避難民の受け入れ支援(市営住宅の提供・生活支援等)を行うこととしました。また、市内在住ウクライナ国籍・ロシア国籍(今回の軍事侵攻とは何ら関係がなく誹謗中傷されないように)の方を対象に国際交流協会に相談窓口を設置。その他、募金箱の設置や義援金の受付、通訳支援ボランティアを募集をしています。



ウクライナ国民への連帯を表するため、千葉駅前大通りのセントラルアーチを、ウクライナ国旗をイメージした青・黄色にライトアップしています。

白鳥 誠 プロフィール



1958年 (昭和33年1月30日生まれ)
1976年 千葉県立木更津高校卒業
1981年 立教大学を経て、そごう百貨店入社(1999年まで18年間、有楽町そごう勤務)
衆議院議員公設秘書
2003年 (4月)千葉市議会議員選挙において緑区より出馬。初当選
2007年 (4月)千葉市議会議員選挙において緑区より出馬。2期目当選
2011年 (4月)千葉市議会議員選挙において緑区より出馬。3期目当選
2015年 (4月)千葉市議会議員選挙において緑区より出馬。4期目当選
2019年 (4月)千葉市議会議員選挙において緑区より出馬。4期目当選

令和3年度市税の歳入補正

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による景気低迷を見込み見積もった令和3年度の市税収入が、景気の持ち直しの影響を受けて大幅に当初予算を上回る見込みとなったため、個人市民税現年課税分(37.94億円)・法人市民税現年課税分(45.12億円)を増額補正。

市税決算見込み

	R3当初予算	決算見込み	差 額	%
個人市民税	872.96億円	910.90億円	+37.94億円	+ 4.9%
法人市民税	94.14億円	139.26億円	+45.12億円	+47.9%

千葉市食のブランド「千(せん)」第2回認定!

千年後の豊かな千葉市を目指す「千葉市食のブランド「千(せん)」」
2022年2月、たくさんの魅力ある商品・サービスの応募の中から、8商品・1サービスの計9品が、新たに「千(せん)」として認定されました。

千 sen

NO.1 脇田ファームの完熟もぎたてトマト

NO.9 「24コーナー」の取り組み

収穫後24時間以内の野菜や果物を集荷し販売(千葉そごうB1/毎週水・木曜日開催)

今回取り上げた問題等、市政に関わること何でも結構です。みなさんのご意見をお聞かせください。どうぞよろしくお願いいたします。

E-mail : info@m-shiratori.jp Fax : 043-307-4882

市政報告のお知らせ

4月23日(土)
13:30~14:30 (嘗田公民館・工作室)
15:30~16:30 (あすみが丘プラザ・会議室2)

4月24日(日)
10:30~11:30 (鎌取コミュニティセンター・講習室)